

整形外科

《概要》

当院の整形外科部門は大阪大学整形外科(医学系研究科器官制御外科学)教室の卒後研修ネットワーク関連病院の一つとして、指導的立場にある日本整形外科学会認定専門医3名が赴任している。一般的な整形外科診療に加えて、関節リウマチの薬物療法と機能再建手術／下肢人工関節手術／脊椎外科手術を中心に高度な専門的治療にも力を注いでいる。その他、骨・軟部悪性腫瘍など特殊な治療が必要と判断された疾患に対しては、大阪大学関連病院のネットワークを利用し、各疾患に応じた専門治療が可能な医療施設への紹介を行っている。

現在、橋本英雄整形外科部長(リウマチ／関節外科担当)、金澤元宣整形外科医長(脊椎外科担当)、太田一威整形外科医長(関節外科担当)、平塚雅之整形外科医員(整形外科一般担当)、石川直輝整形外科医員(整形外科一般担当)の5名体制で前記の専門外来を中心に各種整形外科疾患に対応している。また以前より当院に勤務している櫛谷昭一理学療法科部長の入院手術等の補助を行い、さらに隣接する泉州救命救急センターにも同門の大阪大学整形外科より派遣された常勤スタッフが在籍しており、協力体制を築いている。

平成16年度より始まった新研修医制度に従い、初期研修1年目の新研修医に対しては外科系研修の一環として1か月間の外傷プライマリケアの指導を、初期研修2年目の整形外科専攻を希望する研修医に対しては最大6ヵ月の整形外科専門研修指導を行う。また卒後3年目以降の後期研修医に対しては、大阪大学整形外科後期研修プログラムに則り、整形外科専門医を育成するための研修指導を実践している。また研修医には診断能力や診療技術の習得のみでなく、学会発表や論文投稿などの学術的な面でも整形外科学の発展に将来寄与できるような医師を目指すことを求めている。

外来診療：

月・水・木・金曜の定期手術日を含めて平日は毎日一般外来診療を午前2診で行い、一般的な整形外科疾患をもつ初診患者に対応している。また今後需要が特に見込まれる整形外科専門分野については別枠で診察時間を設定している。火曜午前はリウマチ関節外科(橋本)、金曜午後は脊椎外科(金澤)、関節外科(太田)の予約診察枠を設定し、確実な早期診断と専門的治療の早期導入が可能となっている。

関節リウマチに対する薬物治療に関しては、保険適応となっている製剤は全て使用できる環境を整えており、泉州地区で関節リウマチの治療が完結できるよう努力している。また新規開発薬による治療法などの最新臨床医学の恩恵を早く安全に患者が享受するためには、客観的な事実に基づく治療指針の確立が必要である。我々は大阪大学や整形外科各専門分野の学会と連携を密にしながら、外来で行う臨床治験にも積極的に参加している。

手術以外の保存的治療については、火曜午後と金曜午後に義肢装具を要する患者への処方を目的とする装具外来診を行っている。また長期間にわたる継続的な保存的な治療の必要性が見込まれる慢性疾患に対しては、まず当院で最新の画像診断機器等を用いた原疾患の診断と重症度、進行度を正確に評価し治療方針を決定する。その後、理学療法や、内服処方による通院治療の実践は地域医療

ネットワーク(病病連携、病診連携など)を通して適切な地域内各医療施設へ紹介している。

入院診療：

5階海側病棟と7階海側病棟に計27床の急性期病床を確保している。年間約400件の入院手術を平均在院日数約22日で運営するため常時満床の状態である。したがって原則としてリハビリや安静目的のみの保存治療を目的とした入院は病床管理のうえで物理的に不可能であり、外来受診の時点で前述の地域医療ネットワークを通して適切な他の医療機関に紹介している。また術後安定期に入り、さらにリハビリの継続が必要と判断される患者に対しても、一定した質の高い専門的なリハビリができる病院を泉州地域内に確保し連携を密にしている。

近年、患者が理解しやすい十分な説明が可能なことと、限られた医療資源を効率よく運用するために、入院治療においてはクリニカルパスの重要性が広く認識されるようになった。当科では予定手術の場合、入院から手術、後療法(リハビリ)、退院までほぼ全症例でクリニカルパスを用いて実践している。

一方、交通外傷による開放骨折など緊急入院後手術が必要な症例に対しては、病床運用状況に応じて適宜受け入れるよう努力している。今後も周辺地域の病院・診療所と密接な協力関係を保ちつつ、地域基幹病院の整形外科部門として果たすべき役割を永続的に担うことが当科の目標である。

専門診療： 上記3部門を専門分野とし、手術治療に力を入れている。

1) 関節リウマチの薬物療法と機能再建手術(担当:橋本)

- ・各種生物学的製剤を含む最新のリウマチに対する薬物治療
- ・変形性関節症、リウマチなど四肢の関節破壊に対する機能再建手術
(関節形成術、人工肘関節、人工膝関節など)

2) 下肢人工関節(担当:太田)

- ・変形性関節症、リウマチによる股関節症、膝関節症に対する人工関節置換術
- ・人工関節の緩み症例に対する再置換術 など

3) 脊椎外科(担当:金澤)

- ・頸髄症性脊髄症に対する椎弓形成術
- ・腰椎変性疾患に対する後方侵入椎体間固定術、開窓術
- ・椎間板ヘルニアに対する椎間板摘出術 など

《実績》

1) 臨床治験実績

大阪大学医学部整形外科と連携して、整形外科領域の新しい医療材料や医薬品の開発につながる臨床治験に積極的に参加している。

- ①人工関節術後深部静脈血栓予防のための血液凝固阻害剤(実施中2試験)
- ②関節リウマチに対する新規薬剤(実施中2試験)

2) 手術統計 (2010.1.1～2010.12.31)

全手術件数 : 393 例 (同時施行手術は1件と算定)

内訳:

外傷(85例)

- ・骨折の観血的整復固定
 - 上肢 37 例
 - 下肢 (股関節周囲) 23(14) 例
 - 大腿骨人工骨頭 13 例
- ・軟部組織(軟骨、腱、神経)損傷の再建 12 例

変性疾患(151例)

- ・手根管開放 (手根管症候群) 11 例
- ・腱鞘切開 (ばね指) 13 例
- ・変形性関節症、関節リウマチに対する人工関節
 - 肘 5 例
 - 股(再置換) 52(2) 例
 - 膝(再置換) 53(1) 例
 - 足趾 6 例
- ・関節リウマチに対する関節形成
 - 手関節・手指 5 例
 - 足関節・趾 6 例

脊椎疾患(89例)

- ・頸椎 29 例
- ・胸椎 4 例
- ・腰椎 56 例

腫瘍(15例)

- ・骨腫瘍 5 例
- ・軟部腫瘍 10 例

壊死による四肢切断(15例)

- ・下肢 15 例

その他(抜釘等)

38 例

《業績》

(1) 学会研究会報告 (2010.4～2011.3)

番号 整理	演 題	発 表 者	学 会 ・ 研 究 会 名	年 月 日
1	理学的予防法のみを行った下肢人工関節置換術後の深部静脈血栓症の検討	平塚雅之 萩尾佳介 小山 毅 大島万里子 斉藤正伸	第 114 回中部整形外科災害外科学会・学術集会	2010. 4. 8-10
2	高齢の関節リウマチ患者に対するミゾリビンの有用性	橋本英雄 金澤元宣 太田一威 平塚雅之 石川直樹	第 25 回日本臨床リウマチ学会	2010. 11. 27-28
3	大腿骨近位部病的骨折に対して腫瘍用人工骨頭置換術を施行した 1 例	平塚雅之 太田一威 石川直樹 金澤元宣 櫛谷昭一 橋本英雄 玉井宣行	第 42 回大阪骨折研究会	2010. 12. 11
4	Modified sauve-kapandji procedure for rheumatoid wrist:Results of follow up for more than 5 years	Kawabata, A., Hashimoto, H., Masada, K., Egi, M.	American Academy of Orthopaedic Surgeons	2011. 2. 15-19
5	外反膝に対するモバイルベアリング型人工膝関節の術後成績	太田一威 石川直樹 平塚雅之 金澤元宣 櫛谷昭一 橋本英雄	第 41 回日本人工関節学会	2011. 2. 26

(2) 院内研究活動 (2010.4～2011.3)

番号 整理	演 題	発 表 者	年 月 日
1	転移性脊椎腫瘍について	金澤元宣 橋本英雄	2010. 6. 24